

作成上のポイント

- 環境目標は、改善活動の結果が適切に評価できるように設定することが適切です。  
 例えば、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水資源使用量の3項目は必須となっていますが、そのまま絶対値を目標に設定すると小規模事業所では仕事量や季節要因の方が大きく評価できません。  
 そこで、工場電力では生産高当たりにする、車の燃料使用量は燃費、廃棄物の最終処分量は再資源化率のように仕事量の変動に左右されない指標とすることが望ましい。  
 この場合、環境活動レポートでは、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水資源使用量の実績は、環境目標とは別にして記載しておきます。
- 直接的な環境負荷以外に、本業を通して利用者 / 社会の環境負荷改善にどのように貢献するかも環境目標として設定する。  
 この内容は環境方針の中で述べておくこと。  
 (EA21をやって利益に貢献するかどうかは、この部分をどのように設定するかにかかっています)

環境目標 (中期目標)

項目	評価単位	2005年度 実績	2006年度 目標	2007年度 目標	2008年度 目標
二酸化炭素排出量の削減					
事務所の電気の使用量	KWH				
工場の電力使用量	KWH / 生産高				
業務用自動車の燃費	Km / L				
廃棄物の最終処分量の削減					
産業廃棄物の再資源化率	%				
一般廃棄物の再資源化率	%				
水使用量の削減					
水道使用量(事務所)	トン				
環境配慮型商品の拡販					
販売金額	百万円				
グリーン購入の推進					
採用した品目	品目				

作成日                      年    月    日

承認印	作成者印